

1/24 太宰府天満宮から春の便り
「梅の親善使節」来訪



福岡県にある太宰府天満宮から来た「梅の親善使節」が、一足早い春の便りを千歳に届けました。梅の親善使節は、毎年1月に北海道各地を訪れ梅の木を贈呈しており、使節団の訪問は今回で67回目。この日、市役所を訪れた神職と巫女が、市に紅白の梅を贈呈しました。太宰府天満宮では専門の職人が梅を育てており、境内にある梅のうち一番状態の良いものを選んで送ったとのこと。太宰府天満宮の巫女である継岩 智美さんと諫山 弥央さんの二人は、「花の色や香りを楽しんで春の近づきを感じていただき、心やかに、あたたかな気持ちになっていただけたら」と話しました。千歳市からはお礼として、毎年5月にスズランの花を太宰府天満宮に奉納しています。

1/17 北千歳駐屯地 二十歳の集い
34人が決意新た



北千歳駐屯地で開催された「二十歳の集い」。隊員34人が、新たな一歩を踏み出しました。一糸乱れず整列した20歳の隊員を前に、香川駐屯地司令は祝辞で「この千歳市は、自衛隊の日本一の応援団。そんな千歳市で20歳を迎えたことを誇りに思ってください」と呼びかけました。答辞では、茂木剛喜3等陸曹が「自衛官・社会人として信頼される人間になりたい」と抱負を述べ、南青空陸士長が「お世話になったすべての方々に感謝の気持ちを忘れず、少しでも恩返しができるように頑張ります」と決意しました。式典の後は、10式戦車を相手に綱引きを開催。果敢に挑んでいく20歳の隊員の背中からは、頼もしさが感じられました。最後は先輩隊員も加勢し、44トンもの重さの10式戦車を動かすことに成功。会場は雄叫びや歓声で包まれました。



人のうごき

《総人口》
97,256人 (-70)
男性 49,459人 (-38)
女性 47,797人 (-32)
《世帯》52,277世帯 (-41)

()内は、前月との比較です。

2-1 現在

広報ちとせのおわびと訂正

広報ちとせ1月号19ページにて、団体名を誤って記載していました。
誤：千歳聴覚障害者協会
正：千歳聴力障害者協会
おわびして訂正します。

百年物語 ちとせ空港
手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る

Vol.22 幻の「連山滑走路」

大型陸上攻撃機「連山」
昭和17年、海軍は世界有数の航空機メーカー「中島飛行機」に対し、「大型陸上攻撃機「連山」の試作を命じます。この連山は、速度、爆弾搭載量ともに米軍B29を上回る性能を持ち、最終戦までに合計4機が製造されました。

連山滑走路
海軍は千歳を連山基地とするため、第二千歳にあつた滑走路を2500メートルに延伸するべく、工事を急ぎます。千歳が適地として選ばれたのは、米軍の爆撃を受けなかったため、マリアナ諸島を飛び立ったB29の行動半径外、つまり北海道に残っています。

第二滑走路の存在が国民に知られたのは戦後のこと。連山の離着陸のために建設された滑走路であることから、通称「連山滑走路」と呼ばれ、今でもその原型が東千歳駐屯地に残っています。

道・東北地方である必要があつたからだとはいわれています。しかし、この第二滑走路から連山が発進することはありませんでした。昭和20年8月15日、戦争に負けたことが国民に告げられたその日でした。正午の玉音放送を聞いた後も工事は続行し、夕方に完成。敗戦を知ったお、黙々と作業を続けた作業員たちはその日、何を思ったのでしょうか。

12/26 千歳市・指宿市青少年相互交流事業
児童32人が友好の架け橋に



姉妹都市である指宿市から、16人の児童が千歳市を訪問。千歳市の児童と合わせ、総勢32人が体験学習やホームステイなどで交流を深めました。この交流は平成7年に始まった「千歳市・指宿市青少年相互交流事業」の一環であり、昨夏には千歳市から児童16人が指宿市を訪問しています。歓迎式会場の総合福祉センターでは、千歳市の児童が「千歳になっても忘れない思い出を♥」のパネルで歓迎の意を表しました。みどり台小6年の尾山 愛実さんは、「一生忘れることのない思い出を作って、北海道にまた来たいと思ってもうえたら」と話し、愛実さんの家にホームステイした指宿市の外園 おうかさん(山川小6年)は、千歳でやりたいことに「大きな雪だるまを作ること」を挙げ、「千歳の人とたくさん話して、千歳の“ものしり博士”になりたい」と話しました。

1/16 東千歳公民館漬物コンクール
自家製漬物を食べ比べ



自家製の漬物などを食べ比べ、グランプリを決定する「東千歳公民館漬物コンクール」が農研研修センターで開催されました。コンクールは漬物、飲料、加工品の3部門に分かれ、東千歳地区の農家などが出品。来場者が食べ比べを行い、投票によって順位を競います。漬物部門で1位に輝いた今 明子さんは、家庭菜園で採れたヤーコンを使い、「ヤーコンの粕漬け」を出品。味のポイントは、ヤーコンをすぐに酒粕に漬けず、下ごしらえとして一週間の醤油漬けを2回行うことだといい、手間暇かけて作った自信作を「やわらかくてシャキシャキ。歯の弱い人でも食べられます」と紹介しました。

まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

1/10 夢は大きく 北海道ナンバーワン人形劇団へ
ちとせこアニマル劇団 初公演



ちとせこ児童館に通う児童が、人形劇クラブ「ちとせこアニマル劇団」を結成。初公演として、ねずみ兄弟の物語「うぬぼれねずみ」を披露しました。公演に先駆けて、「札幌市こどもの劇場やまびこ座」と「札幌市こども人形劇場こぐま座」から講師を招いて指導を仰ぎ、人形は児童が手作り。当日は初公演とは思えないほどの名演に、会場から大きな拍手が送られました。ランドセル来館でちとせこ児童館に遊びに来ている坂東 花歩さん(末広小4年)は、主人公のねずみ役を熱演。劇団員同士の話し合いでねずみを一人から兄弟に変更し、苦勞してセリフを覚え直したといい、公演を終えて「拍手を聞いたとき、劇団に入ってよかったと思った」と振り返りました。3月にはやまびこ座にて、ほかの人形劇団との合同発表会が控えているちとせこアニマル劇団。花歩さんは今後の抱負として「ちとせこアニマル劇団を、見てくれたみんなにすごいと言われるような、北海道で一番の人形劇団にしたい」と話しました。

